

江西市政報告

号外
発行
富山市打出409
江西照康事務所
076-435-1000

当たり前のことを大切に まっすぐ取り組みます

会派 自由民主党に留まる

市民目線の政治とは何か

新年早々、私の所属する会派自由民主党から多くの離脱者が出て、それらの議員が新会派を結成するという事態が発生しました。

私自身は、現会派に留まる決意を新たにしました。ここに、日頃よりお世話になつていらっしゃる皆様方にご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。



会派分裂の際の記者会見

私が夏に発行した後援会便りに、6月議会ですうこととし、会派内で不協和音が起きていることについて記載しました。

6月に当選した新人議員の質問が自民党らしくないという議論です。

ある旧町村部の新人議員が、コンパクト

予算縮減の中、多様な意見は当たり前

トシテイ政策について、合併前に町村民が理解していたものと異なることについて行った質問が、自民党らしくない。許せないというもので

私はその質問の主旨に賛同するか否かは別として、その内容そのものが、当地で聞こえる市民の意見であり、それらを

課題は山積み

前期は、政務活動問題から会派を守るために、自民党に批判的な考えの団体の集会等にも積極的に参加し、最前線で自民党会派を守ってきた自負があります。それらが落ち着くや否や、政務活動費の問題を抱えていた議員が中心となり、新会派設立に至ったことは、痛恨の極みです。しかし、継続中の政務活動費裁判、ごみの有料化問題、学校統廃合問題、限界まで来た農業問題、歪の大きい都市計画問題等、課題は山積み。

こんなことに構うことなく、しっかり取り組んでまいります。

会派責任を全う

相手に行う質問ですから、その反動は当然議員に直接及びます。勇気や決意のない議員には到底できないものではありません。

それらの議員の処分をしない現会長のもとはやっつけていけないということであれば大義はなく、私は現会派に留まり、未だ裁判に訴えられている政務活動費問題からも逃げることなく、会派を存続し、令和に相応しい議員活動を続ける所存です。

富山市議会の最大会派、自民党（24人）が分裂し、高田重信会長代行ら16人が新会派を設立する。7日の議員総会で了承され、柞山数男会長らは現会派に残る。会派運営や市政へのスタンスを巡って対立が深刻化していた。市当局との協調路線を重視する高田氏側の会派が多数を占め、議会での主導権を握りそう。

富山市議会、自民会派が分裂

自民は2021年4月の改選以降、全議員（38人）の6割を占めていたが、今回の分裂によって過半数を超える会派

はなくなった。議長など議会ホストを巡って対立が激化すれば、議案審議や市政運営が混乱する可能性がある。高田氏らによる新会派の名称は「富山市議会自由民主党」。会長には金厚有豊氏、副会長に高田氏、幹事長に鋪田博紀氏、政調会長に横野昭氏が就く。

総会後の記者会見で、金厚氏は「改選以降、市当局とのかい離が生まれ、ギクシャクしていた。信頼関係がなければ市

政は前に進まない。それなりにチェック機能も果たすが、市の応援団になる」と説明した。一方、残る8人については、柞山氏や江西照康副議長ら7人が一致して行動する。押田大祐氏も残留の意向を示している。

総会後、柞山氏は報道陣に「現状のままでいくのは難しく、リセットする。正直ここまでになると思わず、脇が甘かった」と説明した。市政へのスタンスについて「これから藤井裕久市長のカラーが出てくる。最前

線で応援隊長を務めたい」と語った。市議は各地域の実情を熟知する存在だと言いつつ、「意見を言う、提言する」という姿勢は「ごく当たり前。みんなで頑張っていきたい」とも述べた。

自民会派を巡っては、21年6月定例会以降、議員間の意見の相違が顕著になっていた。中でも森雅志前市長が始めたコンパクトシティ政策を巡り、検証や修正を厳しく求める議員が増え、当局との協調路線を重視する高田氏らが反発。年末から新会派設立に動いていた。